

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 12 日作成)

委員会名	情報社会デザイン小委員会	主 査 名：仲 隆介
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：河村 廣
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	設置目的：情報社会と言われだしてすでに四半世紀が過ぎた。社会における情報化の進展は、人々のライフスタイルやワークスタイルを大きく変え、社会構造にも影響を与えてきた。建築や都市も徐々に変化しつつある。しかしながら、テクノロジー主導で変化が進んできた感があり、全体がきちんとデザインされバランスの取れた変化が進んできたとは言いがたい。情報社会において人間らしい豊かな生活のできる環境を構築するためのグランドデザインが必要であると考え。統一的なビジョンを「大きな物語」として共有・提示することの難しさに直面した2年間(情報社会ビジョン小委員会での活動)の反省に鑑みて戦略を立て直し、具体的なデザインおよび研究活動の連鎖として、「情報社会」と「デザイン」の関係について検討する。 2003 年度活動計画： ・WG 単位の活動を中心に据える。各WGは下記の活動を実施する。 ・小委員会の開催を年3回(7月、11月、3月)とし各WGの情報交換による相乗効果を生み出す場とする(フォーラムの開催)。 ・WGは情報シンポジウムに活動報告を出す。 ・上記以外に成果(出版、シンポジウム、論文、ワークショップなど)を出す。 ・最新情報の発信を行う(シンポジウムか建築雑誌、年1回)	
委員構成 (委員名(所属))	主査： 仲 隆介 京都工芸繊維大学デザイン経営工学科助教授 幹事： 本江正茂 宮城大学事業構想学部デザイン情報学科専任講師 河中 俊 国土交通省国土技術政策総合研究所都市研究部都市開発研究室長 山田雅夫 山田雅夫・都市設計ネットワーク代表 篠崎道彦 芝浦工業大学システム工学部環境システム学科教授 小林 隆 大和市 大内宏友 日本大学生産工学部建築工学科教授 渡邊朗子 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科専任講師 半明照三 株式会社構造計画研究所事業開発部 山田邦夫 (株)システムスタジオ 沖塩莊一郎 東京理科大学名誉教授 中西泰人 東京農工大学助教授 五十嵐太郎 中部大学専任講師 石曾根栄之 (株)バスプラスワン	
設置 WG (WG 名：目的)	トランスネットワークシティWG： CAMS プロジェクトの展開として、カメラとGPSを搭載した携帯電話を用いた「時空間ボエマー(仮称)」を計画する。成果としては、路上で開催する「サバイバルミーティング#2」や、情報シンポにあわせた時期に、情報系の学生と建築系の学生をともに招いてデザインワークショップを行う予定。 環境情報デザイン研究WG： 現在分断して存在している環境デザイン領域、情報デザイン領域、活動デザイン領域を横断した新しいデザイン理論の確立をめざす。 「環境情報デザイン 100」(仮称)と題して、具体的な環境情報デザインの事例と理論をまとめた本を出版する予定でいる。さらに、「環境情報デザインシンポジウム」を開催し、社会からのフィードバックを得ることを目的として、活動を進めていきたい。	

設置 WG (WG 名：目的)	都市・地域計画情報WG： 都市・地域に関わる空間情報について、3D都市データの取得技術、流通と活用の状況を調査するとともに、これらをベースとし、GISやネットワークを利用して行われる新しい計画、設計の方法について、先進的実践の事例を収集、動向を把握する。 地球環境との「共生」という視点から GIS をとらえ、これまでの GIS と自然環境・資源管理・地域防災計画・施設配置・デジタルコミュニティのあり方に関する論文の成果をもとに検討を行い、初年度はこれまでの先進事例及び WG の研究活動内容をまとめ、次年度には委員会及び委員各自の論文成果の蓄積により、統一テーマをもとに、次年度に出版等を行う予定である。 ファシリティのあり方研究WG： 情報化に対応したファシリティのあり方（特に公共施設のあり方に重点を置く）の研究およびそのマネジメントに有効な IT 活用方法の研究を行う。具体的には、初年度は次の 2 点に重点をおいて研究を行う。 1. IT により何時でも何処でも仕事も勉強もできる時代のファシリティのあり方事例研究 2. IT 活用マネジメントツールの事例研究
2003 年度予算	460,000 円

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会開催 4 回 (7/23,9/9,1/23,3/16) 環境情報デザイン研究 WG 9 回(4/18,5/9,6/13,7/4,7/23,8/6,9/9,2/18,3/18) 都市・地域計画情報 WG 1 回 (8/5) トランスネットワークシティ WG 4 回 (7/4,8/6,9/9,3/16) ファシリティのあり方研究 WG 5 回(5/27,7/17,9/16,11/18,3/10)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) ・ ワークショップ:MEGA-DIAGRAPHIC-DEBATE: CODE WARS を開催(参加者:会員 11 名、会員外 0 名、共催団体 2 名、学生 41 名、合計 54 名) ・ シンポジウム「先進組織の戦略・成果とその課題ー急成長とオフィス改革を実現した IBM ビジネスコンサルティングサービス株式会社の場合ー」、オフィス学会と共同開催 ・ 情報システム技術シンポジウム研究集会「WebGIS・3 次元 GIS を用いた都市・建築デザイン手法の可能性についてー先進事例の紹介と今後の展望ー」開催 ・ 建築雑誌「技術ノート」2003 年 5 月ー 8 月号に環境情報デザイン研究 WG の活動成果を掲載 ・ 情報システム技術シンポジウムに活動報告を提出(トランスネットワークシティ WG) ・ 情報社会デザインフォーラム開催 (9/9,3/26) 委員会 HP アドレス: http://news-sv.aij.or.jp/jyoho/M010/
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 各 WG が自律的に行動することで活動が活発化し、それぞれで成果を挙げることができた。また、情報フォーラムを開催し、各 WG の成果を発表し意見交換することで、小委員会全体の方向の共有も進んだ。
その他評価すべき事項	・ 技術部門設計競技「ユビキタスネットワーク技術を活用した建築・都市・環境空間モデル」企画立案 ・ 大会協議会「ユビキタス社会における建築と情報の新しいかたち」企画立案